

令和6年 青梅市立新町中学校 第2学年 理科間指導計画 【指導者 小野・工藤】

使用教科書 『中学理科 新しい科学』(東京書籍)

学期	月	単元名と学習内容(指導時数)	評価規準 ①自然の事物・現象についての知識・技能 ②科学的な思考・判断・表現 ③主体的に科学的探究に取り組む態度	主な評価方法
1 2	1 通年	【単元1】化学(34) 第1章 物質のなり立ち(8) 第2章 物質どうしの化学変化(7) 第3章 酸素がかかわる化学変化(7) 第4章 化学変化と物質の質量(7) 第5章 化学変化とその利用(5)	①物質の化学変化の実験を通して、物質の生成や関係を理解し、原子や分子のモデルを使って化学変化を化学反応式で表すことを理解する。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ②物質の化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。 ③化学変化に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。	定期考査 ノートやワークシートの提出 宿題の提出 授業中の取り組み
	4 5 6 7	【単元2】生物(37) 第1章 生物と細胞(9) 第2章 植物のからだの つくりとはたらき(10) 第3章 動物のからだの つくりとはたらき(12) 第4章 刺激と反応(6)	①生物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、生物について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ②生物のからだのはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現する。 ③生物に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる	
	2 1 2 3	【単元3】地学(33) 第1章 気象の観測(12) 第2章 雲のでき方と前線(10) 第3章 大気の流れと 日本の天気(11)	①・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象についての基本的な原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。 ②気象全般について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性などを見いだして表現する。 ③天気の変化や日本の気象などに関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。	
	3 9 10 11 12	【単元4】物理(36) 第1章 静電気と放電(7) 第2章 電流の性質(15) 第3章 電流と磁界(14)	①電流と電圧、磁力線などに関する基本的な概念を観察、実験を通して理解するとともに、それらの観察、実験の技能を身につける。 ②電気に関する観察、実験をから課題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、実験結果を分析して解釈し、その規則性や関係性を見いだして表現する。 ③電気に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養い、日常生活と関連づけて自然を総合的に見ることができるようになる。	